

# 出張報告

報告日 令和8年2月20日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	上森 茜・春川 敏浩・柄沢 均・阿部 基・三嶋 崇史
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	予算審査 実践セミナー
日時	令和8年2月12日 ~ 令和8年2月12日
場所 (会場)	Z o o mでのオンライン
概要	<p>予算審査 実践セミナー ～先進議会と学ぶ住民福祉のための予算審査～ 主催：ローカル・マニフェスト推進連盟</p> <p>1. 課題提起 大正大学教授</p> <p>○地方財政の危機と議会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 少子高齢化・ 税収減・ 社会保障費増・ インフラ老朽化・ 物価高騰などにより、自治体財政は構造的に厳しさを増している</li><li>・ 「住民自治の根幹は議会」であり、首長中心の行政運営に対し、議会が政策競争を行うことが不可欠</li><li>・ 議会は追認機関ではなく、住民とともに政策をつくる“フォーラム”として機能すべき</li></ul> <p>○予算審査のポイント</p> <p>(1) 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 総合計画を軸に政策と財政を連動させる</li><li>・ 決算から予算へのサイクルを確立する</li></ul> <p>(2) 予算議会で注目すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 財政健全化法のセンサー、行政評価、監査委員報告、議会提言の反映状況など</li></ul> <p>(3) 外部資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 住民懇談会、専門家、他議会との連携、議選監査委員の活用</li></ul> <p>○政策サイクルと政策財務</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議会改革の第2ステージは「政策形成×財務」の統合</li><li>・ 計画を基軸に、議会が政策の“あるべき姿”を提示し、予算・決算を通じて行政と政策競争を行う</li><li>・ 決算審査は「政策評価」であり、予算審査は「政策決定」 両者を連動させることが重要</li></ul>

## 2. 発表① 笹田卓氏（浜田市議会副議長）

「予算審議の充実と修正案の取組み」

### ○予算決算委員会の常任委員会化

- ・全議員（議長除く）が委員となり、毎年の特別委員会設置が不要に
- ・予算と決算を継続的に扱うことで、議会の監視機能が強化

### ○予算と決算の連動

- ・予算審査での指摘 → 決算で検証 → 次年度予算へ反映
- ・事務事業評価を導入し、議会としての評価を「議会評価意見書」として議決
- ・翌年度、執行部が対応状況を報告する仕組みを確立

### ○修正案可決の実例（令和7年度当初予算）

- ・三桜酒造跡地活用に関する説明不足・議会への報告欠如を問題視
- ・「浜田駅周辺活性化基本構想策定事業費（1,401万円）」を全額削除する修正案を提出
- ・委員会10対9、本会議10対9で可決
- ・対立ではなく「議案の質を高める熟議の成果」と位置づけられた

## 3. 発表② 琴浦町議会事務局

「監視機能強化による予算案の修正動議の取組み」

### ○議会改革の積み重ね

- ・議会基本条例制定、ICT化（タブレット導入）、オンライン委員会、住民アンケートなど、透明性と効率性を高める改革を継続
- ・予算・決算審査特別委員会は全議員で構成し、議会全体で監視機能を発揮

### ○修正動議の実務

- ・琴浦町議会は修正動議を積極的に活用してきた実績がある
- ・令和3年度当初予算では、まなびタウン詳細設計費、サッカー場芝改修設計費など計9,700万円を削減する修正案を可決
- ・修正案提出の手続き（発議者数、委員会での扱い、本会議での採決順序など）が明確化されている

### ○監視機能の強化

- ・住民請願・陳情、ワークショップ、アンケートなどを踏まえ、議会が主体的に判断
- ・修正動議は「議会の説明責任を伴う正当な権限」として運用されている

## 4. 発表③ 川上文浩氏（可児市議会議長）

「予算審議と決算審査の連動、歳入の確保」

### ○可児市の予算編成の理解

- ・10月の要求開始から1月末の最終査定まで、歳出から積み上げる方式
- ・歳入は保守的に見積もり、財調基金で調整
- ・市税・交付税・市債・基金の使用額が重要指標

### ○議会の「4つのサイクル」→年間を通じて政策形成を行う仕組み

	<p>(1) 議会運営サイクル  (2) 予算決算審査サイクル  (3) 意見聴取・反映サイクル (議会報告会・懇談会)  (4) 若い世代との交流サイクル (高校生議会など)</p> <p>○決算審査からの政策提言 → 予算反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点事業点検報告書を活用し、事業の成果・課題を整理</li> <li>・決算審査での提言が翌年度予算に反映される仕組みが確立</li> </ul> <p>例：地域防災力向上事業 → 補助メニュー拡充  有害鳥獣対策 → ICTカメラ導入  公共交通 → 路線見直し検討  子育て支援 → 会計年度任用職員の処遇改善</p> <p>○歳入確保の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税は過度に見込まない</li> <li>・市債はメニューを精査し、将来負担を踏まえて活用</li> <li>・財政の持続性を重視した歳入管理が必要</li> </ul>
所感等	<p><b>【上森 茜】</b></p> <p>地域経営に必要なことは議会が議決している、それだけ重要なことである。提案は首長だが議決は議会、修正はできる。議員間討議こそが大事であり、しっかりと審議するためには議員間でメリットデメリットを示さないといけない。</p> <p>先進的な事例として浜田市議会から議会基本条例にもとづき「新規事業等実施に伴う説明シート」を改良したことや、修正案が可決された具体的な経緯などについて説明があった。</p> <p>琴浦町議会からは議員間での自由討議を経て、どのように修正動議から修正案の提出までに至るのか、詳しい実務 (2人以上で修正動議申立て可能など) についての説明があった。</p> <p>各々の議会での取組を知ることにより柏崎市議会も議会改革を進めている中で決算からの予算審査のサイクルも重視していかなければならないと感じた。</p> <p><b>【春川 敏浩】</b></p> <p>大正大学教授の講義で、決算審査は「政策評価」であり予算審査は「政策決定」両者を連動させることが重要であるとしていた。正に、その通りであり、柏崎市の予算決算常任委員会での審査基準に適合している。</p> <p>発表にあった、浜田市議会では修正案可決事例を説明していたが、議案の質を高める熟議の成果と位置付けており、それぞれの議会での様子を知られた。琴浦町議会では、修正動議が2名以上の議員の申し立てにより可能であり、頻繁に行われているがこれも一つの事例として存在することが理解できた。可児市では、議選監査委員が予算決算常任委員会に出席して、3ヶ月間の監査内容を説明する仕組が特徴的であることが確認できた。</p> <p>柏崎市の予算決算書はそれぞれ別々のものではなく、一連制のものとした方が事業執行状況がより分かりやすくなるため、理想ではないかと思う。</p>

### 【柄沢 均】

決算から予算へのサイクルの環境整備、そして総合計画を中心とした地方財務の環境整備が予算審査のポイントとなる。また、首長だけでなく議会が地域経営の中核的役割を担い、予算の増額・減額は根拠があれば議会で可能である。

事例発表のあったそれぞれの議会が「予算と決算の連動」を軸に、監視機能と共に政策提案機能を高めていた。浜田市では、修正案の可決が対立ではなく、議案内容をより適切に整えるための議論の結果として扱われていた。琴浦町では修正動議を積極的に活用してきた実績がある。可児市の「4つのサイクル」に基づく年間を通じた政策形成の仕組みは、審査を単発で終わらせず継続的な改善につなげている。この仕組みづくりは我々も取り組む必要がある。

一方で、修正案を提出すること自体が目的化してはならない。議会は市長の追認機関ではないという前提に立ちつつも、必要な質疑を尽くし、十分な議論を経たうえで判断しなければならないと考える。

### 【阿部 基】

今回の予算審査実践セミナーを受講し、住民自治の根幹は議会であり、議会の議決は重いものである。また、提案は首長であるが、議会は議決を行うことから、しっかりとした根拠の元、予算の減額だけではなく、増額の修正を求める必要があることを再認識した。

先進自治体の発表においては、琴浦町の本会議にて2名以上の議員が修正動議を申し立てることにより、修正案が審議されるとのことであり、その手順も明確化されていた。可児市では、予算決算審査サイクルを構築しており、決算審査から予算審査に反映させていた。また、委員の質疑は事前提出することを前提とし、委員会で必要と判断された質疑のみ答弁を求めている。

各自治体において様々な手法を取り入れており、柏崎市議会においても議会改革を進めているが、予算審査重視とならないよう努め、決算審査からの予算審査へのサイクルの構築を更に研究する必要性を感じている。

今後も先進自治体の取り組みを学び、質問力の向上により一層努める。

### 【三嶋 崇史】

今回の研修会に参加してポイントとなる点は、総合計画と地方財政の連動、予算審議と決算審査の連動サイクルが重要であること。各議会報告はそれぞれのやり方で議会運営をしているが、共通していることは、住民福祉の向上のための政策形成であり、中長期的な視点で質問し、組み替え動議、修正提案、議員提言による事業の見直しをして議員の意識を高めている。また、監査員のことにも触れ、守秘義務だが話せる内容も多く意見交換を年4回行っている議会もあった。

ここでの論点は、予算審議は財政の健全性の確保、住民福祉サービス向上に資する予算配分であるか。決算審査では、予算が適切に執行されたかを検証し、次の予算編成に活かす役割を担っている。

議会が単に賛否を表明する場ではなく、議案の中身に踏み込み、より良い形へと導くと発言した浜田市の言葉が印象に残った。